

道徳のかけ橋

平成29年11月13日発行
第 1 4 号
福 島 県 教 育 庁 課
義 務 教 育 課

「特別の教科 道徳」の完全実施に向けた準備は進んでいますか。

今号も「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会で説明し、質問があった内容について特集します。右の表は、昨年度実施した「平成28年度道徳教育実施状況調査」の結果から「先行実施の状況」の項目を抜粋したものです。所属する学校では、完全実施に向けた準備は進んでいますか。小学校は平成30年度、中学校は平成31年度からの完全実施が近づいてきました。先般開催された「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会に参加された先生方には、実施までのロードマップを作成し、見通しをもって完全実施に臨めるようお願いしたところです。ロードマップの作成に当たっては、全体計画・別業、年間指導計画の作成や評価の在り方の検討、保護者への説明と周知及びその時期等が重要なポイントとなります。校長の明確な指導方針の下、道徳教育推進教師を要として、全職員で共通理解を図りながら、完全実施までの準備を進めてくださるようお願いいたします。

回答	小学校	中学校	全体
①改正学習指導要領に基づいた内容項目を用いて教育課程を編成している。	12.3	10.5	11.7
②通知表に「道徳の時間」に係る欄を設けている。	0.7	0.0	0.5
③①②以外の先行実施をしている。	8.3	6.4	7.7
④先行実施はしていない。	79.1	83.2	80.5

県教育委員会でも、保護者等を対象に発行を予定している「道徳のとびら」において、周知と啓発を図る予定です。各学校においても、保護者集会やお便り等機会を設けて、保護者への周知や啓発に努めていただきますようお願いいたします。

13、14号に引き続き、「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会の説明と質問いただいた内容について、とりまとめたものを掲載します。今回が3回目です。

内容項目が追加・整理され、体系的に分かりやすく整理されました。

【ポイント2】項目の追加と体系的なものへの改善①

内容項目の追加	「特別の教科 道徳」の内容の学年段階・学校段階の一覧表参照。 【小・低学年】19項目 「個性の伸長」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」追加 【小・中学年】20項目 「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」追加 【小・高学年】22項目 「よりよく生きる言ひ」追加 【中学校】22項目
体系的なものへの改善 手掛かりとなる言葉の付記	記述の仕方について、各学年毎の記述を改め、内容項目毎の記載に変更して、系統性と発展性を意識して指導できるように配慮した。また、「公正、公平、社会正義」などの手掛かりとなる言葉を付記し、指導のしやすさに配慮した。

小学校低学年は19項目（3項目追加）、中学年は20項目（2項目追加）、高学年・中学校は22項目（高学年は1項目追加）となります。前号でも述べましたが、「各学年の内容項目について、相当する学年において全て取り上げること」とされていますので、年間指導計画作成の際には漏れのないよう留意してください。

また、それぞれの内容項目に「公正、公平、社会正義」などの手掛かりとなる言葉（キーワード）を付記することで、指導のしやすさに配慮しています。



【ポイント2】項目の追加と体系的なものへの改善②

※ 各学年の道徳の時間に関すること

7 観点、思いやり

【小・低学年】19項目
「個性の伸長」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」追加

【小・中学年】20項目
「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」追加

【小・高学年】22項目
「よりよく生きる言ひ」追加

【中学校】22項目

体系的なものへの改善
手掛かりとなる言葉の付記

記述の仕方について、各学年毎の記述を改め、内容項目毎の記載に変更して、系統性と発展性を意識して指導できるように配慮した。また、「公正、公平、社会正義」などの手掛かりとなる言葉を付記し、指導のしやすさに配慮した。

従来、小（中）指導要領道徳解説編では、内容項目は各学年毎に記述され、学年間の発達特性や発達課題の違いが読み取りづらくなっていました。そこで、記述の仕方を改め、各学年毎ではなく、内容項目毎の記載に変更されました。授業を行う際には、授業を行う学年の発達特性や発達の課題が何かを把握するとともに、隣接する学年等の記述も読み、児童生徒の実態や教材の特性を押さえることが大切です。

- 「その年齢ならではの」児童生徒の発達の特性を押さえる。
- 隣接する年齢の児童の発達の特性を押さえ、類似と相違を確認する。
- 確認した発達の課題を生かして、児童生徒の実態や教材の特性を押さえる。

これからの指導方法はどのようなもの？

【ポイント3】問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導

問題解決的な学習の工夫	道徳科における問題解決的な学習とは、ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら、実現するための問題を見つけ、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の感じ方や考え方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うことである。
道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れる工夫	道徳的諸価値を理解したり、自分との関わりで多面的、多角的に考えたりするためには、例えば、実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為をして、礼儀のよさや作法の難しさなどを考えたり、相手に思いやりのある言葉を掛けたり、手助けをして親切についての考えを深めたりするような道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れることが考えられる。さらに、読み物教材等を活用した場合には、その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も考えられる。
特別活動等の多様な実践活動等を生かす工夫	道徳科において実践活動や体験活動を生かす方法は多様に考えられ、各学校で児童の発達の段階等を考慮して年間指導計画に位置付け、実施できるといえることが大切である。

道徳科における質の高い多様な指導方法について（イメージ）

別紙1

※以下の指導方法は、専門家会議における委員の意見をもとに作成したものであり、指導方法にこれらに限定されるものではない。道徳科指導等推進委員が学習指導要領の改訂の趣意に基づき、学校の実情、児童の発達の段階等を踏まえ、授業の実践やねらいに応じた適切な指導方法を選択することが重要。以下の指導方法は、それぞれが互いに排他的ではなく、それぞれが互いに補完的であり、必要に応じて複数の指導方法を組み合わせることで、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられる。

	×	読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	×
ねらい		教科の登場人物の心情や自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生き生きと出会う様々な問題や課題を主体的に解決するための必要な態度・能力を養う。	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的諸価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するための必要な態度・能力を養う。	
真実例		登場人物の心情理解のみの指導 登場人物の心情や自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生き生きと出会う様々な問題や課題を主体的に解決するための必要な態度・能力を養う。	道徳的行為に関する体験的な学習を通して、道徳的諸価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するための必要な態度・能力を養う。	主題やねらいの指定が不足している
評価		登場人物の心情や自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生き生きと出会う様々な問題や課題を主体的に解決するための必要な態度・能力を養う。	道徳的行為に関する体験的な学習を通して、道徳的諸価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するための必要な態度・能力を養う。	生活経験の話し合い
備考		登場人物の心情や自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生き生きと出会う様々な問題や課題を主体的に解決するための必要な態度・能力を養う。	道徳的行為に関する体験的な学習を通して、道徳的諸価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するための必要な態度・能力を養う。	



小（中）新学習指導要領では、「児童の発達の段階や特性等に考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること」とされ、「（H28.7.22）特別の教科 道徳の指導方法・評価等について（報告）道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」では、従来一般的に行われた「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」を加えて、「質の高い多様な指導方法」として、3つの指導方法が例示されています。なお、今まで一般的に実践されてきた「登場人物の自我関与型」の授業が否定されているような誤解がありますが決してそうではありません。否定されているのは「読み取り」や「人物の心情理解のみ」の授業です。

この表が、上記の専門家会議の報告書に掲載されている質の高い多様な指導方法のイメージです。道徳教育推進教師の皆様には、是非この表の原寸大の印刷物を、先生方全員にお配りいただき、これからの多様な指導方法について共有し実践に生かしてください。なお、表の両側には、「×」の表記で、課題が多く形式的な指導として以下の2つが示されています。

- 登場人物の心情理解のみの指導
- 主題やねらいが不十分な単なる生活経験の話し合い

この2つだけでなく、「読み物教材のあらすじを追うだけの授業」や「道徳的価値（内容項目）に基づかない体験的な授業」等も散見されますので、道徳の特質に根ざした授業づくりをこころがけることが大切です。

	×	読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	×
指導方法の効果		子供たちが読み物教材の登場人物に託して自分の考えや感情を表現する中で、道徳的諸価値の理解を深める指導方法として効果的。	出合った道徳的な問題に対峙しようとする資力・能力を養い、道徳的諸価値の理解を深める。また、問題解決を通じて、道徳的諸価値の理解を深める。また、問題解決を通じて、道徳的諸価値の理解を深める。	心構えや行為とを学び合わせる。道徳的諸価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するための必要な態度・能力を養う。また、問題解決を通じて、道徳的諸価値の理解を深める。	主題やねらいの指定が不足している
指導上の留意点		道徳的諸価値に関する問題について多様な物事と考え、議論する中で、多面的・多角的な見方へと発展し、道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりで深めることが可能。	明確なテーマの設定のもと、多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているが、上記「問い」の設定を可及的とする教材が選択されているが、議論し、探求するプロセスが重視されていない。	明確なテーマのもと、心構えや行為との前編や後編を連続させ、多面的・多角的な思考を促す教材が選択されているが、上記「問い」の設定を可及的とする教材が選択されている。	生活経験の話し合い
評価		個人内評価を促進して行う。児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達の促進に努めていく指導。	道徳的諸価値の理解を深める。また、問題解決を通じて、道徳的諸価値の理解を深める。また、問題解決を通じて、道徳的諸価値の理解を深める。	道徳的行為に関する体験的な学習を通して、道徳的諸価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するための必要な態度・能力を養う。	

Q 「考え、議論する道徳」に代わって、「問題解決的な学習」などの多様な指導方法を耳にするようになりました。両者に関連はあるのでしょうか。これから求められる授業の在り方について教えてください。

A これから求められる質の高い多様な指導方法として例示された「問題解決的な学習」等の指導方法は「考え、議論する道徳」をより具体化し、道徳科の特質に根ざした最も有効な指導方法であると考えられます。今後は、各学校において、これら3つの指導方法を目安とした指導方法の実践と研究が期待されることです。なお、示されている3つの指導方法は、一つ一つが独立した型ではないことに留意しながら、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うなどの工夫も大切です。